

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 和 )

事業所番号	0670700939		
法人名	十和建设株式会社		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「和心」ふじ荘		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-1		
自己評価作成日	平成 22年 10月 28日	開設年月日	平成 18年 1月 17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当GHは敷地面積が広く、建物もゆとりある造りになっています。入居者もゆったり、のんびり暮らせる空間があります。又、畑、花畑もあり季節の野菜、花を楽しむ事ができます。地域の住民とのかかわりも大切にして買い物、外出の日を定期的に計画している施設です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからは田園や農村風景を望むことができ、田んぼや畑での四季折々の作業、「ダリア畑」などの花々を眺めることができます。また、地域のネットワークづくりにも積極的に関わっており、市の指定を受けた活動、特養ホームや在宅介護支援センターと連携した活動にも取り組んでいます。間もなく開設から5年の節目を迎えるにあたり、「利用者の希望を尊重した個別援助」と「職員のためめ意識改革」に、再び原点に立ち返りながら取り組もうとしているホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成 22年 11月 16日	評価結果決定日	平成 22年 12月 3日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に信頼される施設を目指すことを理念に掲げ施設内に掲示してある。	地域密着型サービスとしての理念(地域に信頼される運営を行うなど)をリビング・事務室・研修室に掲げ、職員間で共有して実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域行事等に賛同し、入居者の方を出来るだけ参加できるようにしている。	納涼会、クリスマス会、三味線演奏等のボランティア、子供会のお神輿来荘やプランター寄贈、公民館の文化祭など、季節ごとの催しを通して地域と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、広報を発行し運営推進会議などを通して施設の様子や、行事などを地域の皆さんにお知らせしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催して入居者の状況を報告し、参加者より助言をいただき、それをもとに検討し向上に活かしている。	町内会長、民生児童委員、老人クラブ代表、婦人会長、市担当者、介護相談員、家族等が参加し、「家族アンケート」「目標達成計画」「昼食の試食」等を議題として、2ヶ月ごとに開催されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回介護相談員の方の来荘時、かかわってもらったり、運営推進会議の委員でもあるので、会議の時に行政の情報を教えてもらったりしている。	毎月1回介護相談員1名がホーム訪れて2時間程度利用者と話し、気づきなどを話してくれている。また、認知症サポーター養成講座の講師を引き受ける等の協力も行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関に鍵をかけているが、施設内は両ユニット自由に行き来できる。入居者の状況に合わせ一時的に柵をとりつける事もあるが、本人、家族へは文書にても説明、同意のもとに最小限度の対応にこころがけている。	「敷地の内・外を問わず、職員が気付かない間に利用者が外にいた」=「事故発生」と考えており、「4月にホーム前の道路に利用者がいたこと」や「6月にホームの玄関先に利用者がいたこと」、また、「他にも外に出て行きそうな方が2～3名いたこと」から、7月以降は午前9時30分から午後5時30分まで、正面玄関に毎日鍵を掛けている。	①利用者が外に出たくなる場面・理由・行先等の考察 ②玄関の施錠による「身体的・精神的な圧迫感や苦痛、違和感や疎外感など」が、利用者・家族・地域の方に与える影響の確認 ③認知症ケアの専門機関として、ホームが担うべき役割や対応の検討が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等へ参加したことを参考に防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ふじ荘でも後見制度を利用している入居者がいるので、職員は研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明をし、疑問点がないか確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当窓口がある事を家族に周知しており、相談できる様になっている。入居者の悩みも聞いている。	3月に行った家族アンケートの結果を、職員間で共有し、運営推進会議に報告している。また、家族への報告(フィードバック)は行わなかったため、次回からは家族にも報告したいと考えている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議において職員の意見を聞く機会を設け、反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、資格手当を設け、給与に反映し環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに会った研修の機会を確保し、外部研修で学んだ事を内部研修に活かすように努めている。	年間研修計画を作成し、「口腔ケア」等の所内研修が行われているが、予定されていた「身体拘束の排除のための取り組み」という研修については、時間が取れなかったため実施できなかった。	「地域密着型サービス サービス評価ガイドブック2009」や「身体拘束ゼロへの手引き」等の活用により、職員の意識改革、「安全」と「自由な暮らし」を両立させるOJTの実施などが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム協会の研修及び庄内連絡会の研修などにも積極的に参加している。	グループホーム連絡協議会の大会や研修に参加して交流を図っている。また、交換実習として他のホームに出向き、「入浴拒否への対応」や「コミュニケーション方法」について学んでいる。	「外に出てしまう利用者がある場合でも、玄関に鍵をかけない工夫を行っているホーム」との間で、勉強会・相互訪問・交換実習を行ってみる取り組みも望まれる。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで生活されてきた環境や様子などの記録を踏まえ、言葉掛けに注意しながら、要望、希望などに耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や通院に来られた時は家族と会話する様にして要望、希望など聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本氏、家族と担当職員、管理者、ケアマネで話し合った支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方が出来ることを見つけ、職員も一緒に楽しみながら行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の定期受診は、なるべく家族にお願いしていて、通院時は状態をなるべく詳しく文書、言葉で説明し、情報を共有している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の知人など、面会に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションにも気を配り、より良い関係が築けるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入所中の写真を送ったり、相談事などがある場合必要に応じ支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方などは、本人、家族の意向を取りいれながら、対応している。問題が生じた場合もその人の立場に立って対応している。	利用者や家族との日々の関わりや会話から、思いや意向などを把握しているが、「利用者本位」の視点で、より的確に把握するための「シート」や「様式」は、まだ活用されていない。	認知症高齢者の思いや意向などを、より的確に把握するための「シート」や「様式」(例:センター方式)を用いて、利用者の側から、それぞれの思いや意向を把握・点検する取り組みを期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人」のケースを参照にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあった、又は好きな仕事をしてもらったり、体操や歌などリラックス出来る環境を作っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット毎にケース会議を行って問題を解決できる様にしている。現状と相違がある場合は計画の見直しも考慮する。	各ユニットごとに毎月3名分の介護計画を見直すことにより、3ヶ月に1度の定期的見直しが実施されている。また、見直しの際には、居室担当職員の気づきも加えながら、話し合うようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭で日々の気づきなどを報告し合い、又、ケース記録に記入し職員間で情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを行っている、又地域の子供会や、一般ボランティアなどの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時毎日の血圧、体温状況、様子などを記入した用紙を医師に渡し、家族にも情報を伝え、医師から指示をもらい、家族職員で情報を共有している。	家族付添による受診を基本としているが、利用者の居室担当職員が作成した連絡票(バイタル・特記等を記載)を家族に渡し、受診時の情報提供、情報共有が十分に行えるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況等報告、相談してその指示に従い健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医、協力医療機関と相談情報交換できる関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を説明し、対応している。重度化した場合も本人、家族等話し合い今後の支援に協力している。	重度化に係る指針が作成されており、それに基づいた対応を個別に行うようにしている。また、終末期(ターミナル)ケアの取り組みについては、現在のところ行われていない。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを基本に初期対応を迅速にし、看護師の指示を仰いでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の自主防災訓練を実施。年2回消防署、地域消防団に協力を得て訓練実施。	地域の協力も得ながら、5月と10月に防災訓練が実施されており、夜間を想定した訓練も検討予定である。また、自主防災訓練(マニュアルどおりに行動できるかの確認)は毎月行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝のミーティングで情報確認し、職員1人1人言葉使いに配慮している。職員会議、ケース会議等でも話し合いの場を設けている。	プライバシーや個人情報に関する内部研修が行われている。また、利用者一人ひとりの性格や理解力にも配慮したスタイルで、「お知らせ文」や「注意書き」の掲示等が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をひきだす声かけをし、希望があれば、外出、買い物通院などの支援を提供している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望をききながら、個々平等になる様に心がけ、利用者にあった過ごし方を考えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は本人の希望に合わせ、出張サービスを利用し、その日の服装も本人の意向に合わせている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、盛り付け等を手伝ってもらっている。	1ヶ月の食事メニューは職員が交代で考え、誕生日希望献立・宅配寿司や折詰の出前・ホームの畑の野菜などが取り入れられている。また、「切る」「盛り付ける」などは、利用者も手伝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、粥、キザミ、トロミ等を用いている。水分補給もその個人に合わせこまめに声掛けをし摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、見守りで口腔ケアを行っている、必要時介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を決め、又声掛けしトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄が「さわやか記録表」に細かくチェックされており、利用者一人ひとりの排泄誘導にも活かされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューに、ヨーグルト、牛乳、バナナを取り入れ、便秘の予防に努めている。下剤を服薬している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴確保が出来ている。少しでも楽しめるように、話を聞きながら、リラックス出来る様にしている。	入浴人数は一日3名を基本としており、3日に1回の入浴となっている(日曜日を除く)。また、利用開始時にそのことは伝えられるが、入浴回数の希望確認は行われていない。	一人ひとりの「入浴習慣」や「入浴に対する考え方」をあらかじめ確認し、入浴の回数・形態・時間などに反映させていく取り組みも期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人とよく会話をし希望を聞きながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前、食後の服薬の確認とチェックを2人体制で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までやってきた、ふきん縫い、皿拭き、モップ掛け、洗濯たたみなど、やりたい事を見守りながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮し、天気がいい時は散歩に出たり、買い物に同行しています。月1回は全体の行事があり、地域の催し物にも参加しています。	ユニットごとに外出日を設けており、スリッパ・衣類・おやつ・日用品などを購入される方もいる。また、利用者の状態や要介護度も考慮しながら、あじさい見学、梨狩り、もみじ狩り、飯森山公園などのドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、買い物時本人の希望を聞きながら買い物出来る様支援している。同行できなくても本人がほしい物を職員が購入してきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、本人が希望すれば電話もする事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはカラオケ、椅子、電子ピアノがあり、レクレーションを楽しむ空間があります。テレビをみたり、塗り絵をしたり、縫い物をしたり自由に過ごせる空間がある。	屋外の敷地内には、畑・花畑・花壇・ベンチ等があり、利用者の憩いの場にもなっている。玄関付近のなだらかなスロープ、床暖房が施された廊下と脱衣室、利用者が思い思いに寛げる広々とした居間兼食堂がある。しかしトイレのスペースには暖房がなく、寒く感じる。	高齢である利用者の身体状況を考慮するとともに、疾病の予防や事故防止などの点からも、トイレのスペースに暖房設備や暖房器具を設置し、より安全かつ快適にトイレを使用できるよう、環境を整える配慮と工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、ホールに椅子があり、気の合う入居者同志で楽しく過ごせる場所があります。食堂にもソファがあり、お茶の時間に談笑する場所になっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンスなどが居室に持ち込む事が出来ます。家族の写真や、花を飾り居心地よく過ごせる様にしています。本人が色塗りしたカレンダーも貼っている。	居室には、家族の写真、テレビ、温度計、造花などがあり、また、広いクローゼット、大型エアコン、ペアガラスの出窓なども設置されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、洗面台の棚に名前を付け分かりやすい様にしている。下駄箱にも名前を付けて対応している。			